

筑波大学周辺小児科分布と宿舎居住者利用程度の

関連性に関する考察

鄭 紫来 (地球科学専攻)

1. **目的:**「こどもは病気がかかりやすい」「各種の予防接種を定期的に受ける」など、育児を行う家庭では小児科を利用する人が多い。

本研究では、小児科の空間分布に着目し、その空間分布把握し空間特徴を明らかにする。この結果から筑波大学周辺の小児科の分布と筑波大学宿舎居住者利用程度の関連性について考察することを目的とする。

2. **調査対象:** 本研究対象は筑波大学一ノ矢世帯宿舎住んでいる15世帯である。15世帯のうち中国人 5名、マレーシア人 2名、スリランカ人 2名、ザンビア人 1名、国籍不明 10名となっている。
3. **研究手法:** つくば市役所ホームページで筑波大学周辺に小児科情報入手し、Google Earth と ArcGIS を用いて小児科の位置の地図化を行った。

次に、知人に紹介をお願いし一ノ矢世帯宿舎住んでいる人に小児科利用情報について聞き取り調査を行った。

以上の結果をもとに、小児科の調査を行い、空間特徴に基づいて居住者利用程度の関連性を考察した。

4. **結果・考察:** 聞き取り調査の結果、15世帯中「自転車1人」「バス4人」「自家用車10人」という交通手段の結果となった。利用する小児科は8箇所である。一ノ矢世帯宿舎中心から1km 毎に半径バッファリングを設定することによって、この8箇所が小児科の立地している範囲、約5キロメートル以内ことがわかった。この範囲は医療施設の利便が良い範囲であると思われる。利用する小児科は主に「桜」「つくばセンター」「学園の森」の地区に分布している。しかし北方面の病院はほとんど利用していない。一番近い場

所は 1km バッファ内の倉田内科クリニック、一番遠い場所につくばセンター付近の3箇所と Iias 付近の1箇所病院である(図2)。しかし、自転車利用者は一番近い場所を選択しない(図1)。その原因を実地調査し、1km の倉田内科クリニックは畑と住宅地域に立地するため、前の道路はとて狭く、歩道や自転車車道がないため危険であることがわかった。2km の飯岡病院は桜商店街の大きな百円ショップの後ろに立地して、道路に歩道を設置するため病院の利便性や安全性が配慮されていると考えられる。車利用者は車の利便性を考慮し全体の8箇所中で7箇所の小児科を選択することができると考えられる。宿舎一番近い場所の学園の森、つくばセンターショッピングモールは近接性が良いため小児科を利用する人が多い。バス利用者は主に筑波大学循環バスで到達できる「つくばセンタークリーニング」を利用する。なかには Lala Garden 付近の仁愛内科病院を選択する人もいる。その原因は仁愛内科病院の医者は台湾人だから中国語話せることである。この結果から外国人が多い舎居住者対して、小児科を利用する因子は立地だけではなく、利用できる言葉も重要なことであると考えられる。

まとめとして、交通の利便が良い「つくばセンタークリニック」の利用者一番多いという結果となった。次に利用者多い小児科は Iias ショッピングモール付近の学園の森キッズクリニックと桜商店街付近の飯岡病院である。北方面の小児科の利用者はいない。この結果から、立地している場所は交通や、買い物の利便性が良いために、宿舎居住者が利用する小児科の利用程度高いエリアということがわかる。

交通手段によって選択する小児科

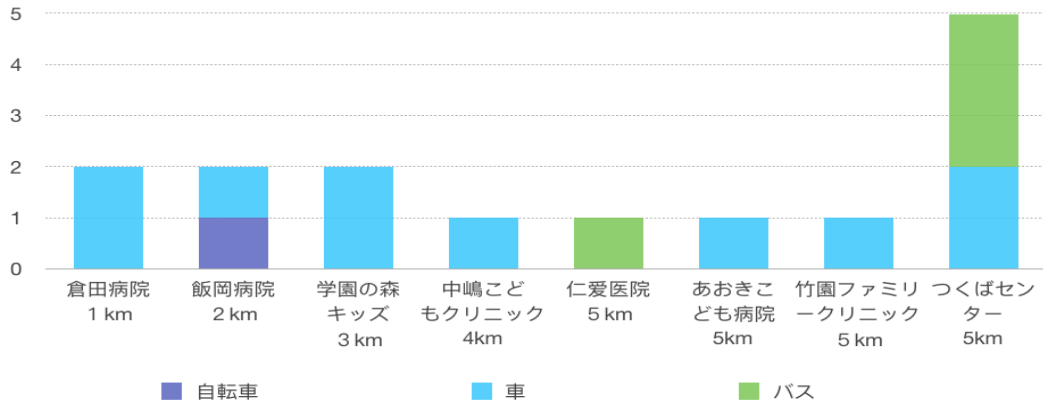


図1

筑波大学周辺小児科分布と利用人数



図2